

令和5（2023）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

マフグ日本海

対象水域	日本海（青森～島根）	参画機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、海洋生物環境研究所、青森 県産業技術センター水産総合研究所、 秋田県水産振興センター、山形県水産 研究所、新潟県水産海洋研究所、石川県 水産総合センター、福井県水産試験場、 兵庫県立農林水産技術総合センター但 馬水産技術センター、島根県水産技術 センター
------	------------	-------	---

(1) 調査の概要

- ・ 機構は生物情報の収集を実施し、各県漁獲情報を集約
- ・ 海洋生物環境研究所は市場調査により生物学的基礎情報を蓄積
- ・ 各県は漁獲統計の収集を実施

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和4年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施
- ・ 青森県では日本海主要21港における2007年以降の月別漁法別漁獲量（フグ類として集計している漁協の値は含まない）を収集済み
 - ・ 秋田県では2003年以降の月別漁法別漁獲量（トラフグを除くその他フグ類としての集計値）を収集済み
 - ・ 山形県では2021年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・ 新潟県では2021年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・ 石川県では主要10港における2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・ 福井県では2020年以降の月別漁法別漁獲量（フグ類として）を収集済み
 - ・ 兵庫県では1971年以降の月別漁獲量（フグ類として）を収集済み
 - ・ 島根県では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・ 海洋生物環境研究所は市場調査と測定を実施、生物学的基礎データを収集中
 - ・ 機構は各県漁獲情報を集約中

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和4年度評価報告書（https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_265.pdf、2023年11月20日閲覧）を参照
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上

(4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

- ・資源評価調査報告書については令 4 年度に作成および公表済み
(https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_265.pdf、2023 年 11 月 20 日閲覧)
- ・マフグ単独での漁獲量集計値が得られない県が多く他のフグ類を含む値を扱わざるを得ず今後とも精査が必要
- ・本種の資源動向や資源水準を判断するための生物学的基礎知見を充実、長期的な漁獲量や資源量指標値の収集が必要